

ウーラノス

JULY 2008 Vol.28

# Orpallios

## 教養学部 4年 関井さん

母がクラシック好きだったので、私も小さい頃からよく聴いていました。中学に入ってからフルートを始め、吹奏楽で有名だったこともあり、東北学院大学に進学。現在はシンフォニック・ウインド・アンサンブル(SWE)に所属し、今年こそは吹奏楽コンクールで全国大会をめざして頑張っています。音楽の夢を母からバトンタッチされたわけではないのですが、まさに音楽一筋という感じで、SWEの活動のほか、フルートの先生にも師事しています。将来は高校の教員になり、吹奏楽部の顧問としてタクトを振るのが目標です。

 **東北学院大学**  
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY



# ICT時代に おける 大学の コンピ ュータ 利用 環境



学長  
星宮 望  
Nozomu HOSHIMIYA

21世紀はIT(Information Technology／情報技術)あるいはICT(Information Communication Technology／情報通信技術)の時代であるといわれています。昨今の携帯電話、電子メールの普及やインターネットの利用環境の充実を考えればその通りであるといえます。そのような時代における大学での利用環境のあり方について考えてみましょう。

2008年5月24日に、学都仙台コンソーシアムとヒビテ・コンソーシアム(フィンランド)の合同シンポジウム“Future Trends in Wellbeing Technology and Services”(福祉技術と福祉サービスの将来の傾向に関する国際シンポジウム)が仙台市で開催されました。それをきっかけとして、1996年にフィンランドのUniversity of Ouluで行われた国際シンポジウムのプログラムを再び開いてみました。この時のシンポジウムのテーマは“Technology Transfer between Research Institute and Industry”(研究機関と企業の技術移転)というものでした。ちょうどこの時期に開催された国際学会[\*]のSatellite Symposiumとして開催され、新しい医療機器の開発における、「大学から企業への技術移転」が主題でした。我々のグループの工学部と医学部の共同研究として推進した機能的電気刺激(Functional Electrical Stimulation/FES)システムの研究、そしてそれを基にした産学連携の成果として臨床応用を認可された新しい医療機器であるポータブルFESシステムの開発が国際的に評価されて招待講演をするよう依頼されたのです[\*\*]。その内容は、別途、報告していますので、ここでは、その実施に当たってのICT技術の先進的利用の例について触れてみたいと思います。

Ouluは、北極圏にある小都市で、このすぐ近くには世界中に「サンタクロース村」として知られているRovaniemiの町があります。これは、今から12年前のことですが、強く記憶に残っていることがあります。それは、シンポジウムにおいて、講演者としての私のプロフィールが、私への連絡が全く無かったのに、当日に正確な情報が印刷されて参加者全員に配布されたということです。参加者に配布された資料は、私のカラーの顔写真入りで、しかも経歴が正確に英語で記載されていました。この情報は、当時の東北大学工学部のホームページ(HP)に掲載されていたものを地球の反対側から、事前にインターネットで入手して作成されたとのことでした。このことを、とりわけ2008年における東北学院大学のHPの英語の表示のレベルと比較してみると、そこには大きな差が存在しています。学長就任

以来、この差を埋めるためにHPの充実と、そして英語版の充実を訴えてきていますが、なかなか進捗していないのが現状です。私個人に関しては、略歴や研究業績の主なものについて英語版ですでにHPに記載しています。今後、学内のすべての教員がHPに英語で略歴や研究業績の主なものについて記載されることを期待しています。その際には、特に文学部英文学科の教員の力に大いに期待しています。

ところで、さきほどの話のそのはるか前の1975年当時のスウェーデンの様子も報告したいと思います。私は、1975-76年に日瑞基金(Japan-Sweden Foundation)の派遣研究員として14ヶ月間、スウェーデンのウプサラ大学に滞在いたしました。この時に驚いたことは、コンピュータの生産国ではないスウェーデンのウプサラ大学でも、すべての学生が24時間自由に大学内でコンピュータを利用できる環境が用意されていたことです。制限された区域ではありましたが、学生全員が24時間自由に大学内に入り可能でかつコンピュータをいつでも使える状態にあったのです。日本は、高性能なコンピュータを開発し生産する大輸出国であり、日本企業は、米国のIBMなどとの熾烈な競争をして国際的な企業としてその存在感を増してきていますが、社会における真の利用形態や利用の意味についての社会一般での理解がまだまだ不足しているように思われます。その一例として、本学に限られたことではありませんが、それから30年以上たっている2008年においても、日本の大学における学生のコンピュータ利用環境がどのようなものかを、世界的なレベルにたつて反省することが強く求められていると思います。無線LANの利用環境ばかりでなく、広い意味での利用環境の充実が急がれます。



[\*] "10th Nordic-Baltic Conference on Biomedical Engineering & 1st International Conference on Bioelectromagnetism", Tampere, Finland (1996)

[\*\*] N.Hoshimiya, Y.Handa and Y.Iguchi: "Development of the Portable FES System and Flexible Electrodes for Clinical Use", Satellite Symposium on Technology Transfer between Research Institute and Industry (Oulu, Finland in June 7-8, 1996).





# 地域との 信頼の絆を未来へ



公開講座には、地域の方が数多く参加しています。

これまでの長い歴史の中で、東北学院大学は、さまざまな形で地域貢献を重ねてきました。大学での研究成果を地域に還元したり、自治体と連携しながら研究活動を進めたり、その活動の範囲は東北各地に広がっています。

大学での研究や教育の成果を広く社会に開放し、社会人の教養を高め、文化の向上に資する「公開講座」もその一つ。歴史や法律など、より関心の高いテーマを取り上げながら、今年度も多くの皆様にご参加いただいています。なかでも多賀城キャンパスを拠点とした「地域市民のための大学公開講座」は、多賀城市との連携協力協定に基づく事業の一環として開催されています。

宮城県や仙台市との連携でも、新たな時代の息吹が見られます。宮城県教育委員会との「高大連携」では、本学の3つのキャンパスで、高校生に対する在学生の通常科目の開放や特別授業などを行っています。また、仙台市教育委員会との連携事業としては、「小学校外国語ボランティア活動」を実施。本学の学生が小学校へ出向き、総合的な学習の時間を利用して、子どもたちの外国語活動をサポートしています。

このほか、本学では「ハイテク・リサーチ・センター」を一大拠点として、国内外の産学官連携も視野に入れながら、先端的なナノテクノロジーの研究を進めています。小・中学校及び高等学校の理科担当教員を対象とした文部科学省委託事業の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」も、昨今の“理科離れ”を食い止めるためのプログラムとして注目されています。

限りない未来に向かって、地域との信頼の絆を深めている東北学院大学では、今後も“開かれた大学”として、さらなる地域貢献に努めてまいります。



多賀城キャンパスにあるハイテク・リサーチ・センター。

# 数

東北学院大学

字で見る

# 122

年

122年の歴史を礎に、  
限りない未来へ向かって  
建学の精神を受け継ぐ

東北学院が創立されたのは、今から122年前。キリスト教伝道者の押川方義と宣教師のウィリアム・E・ホーイにより、「仙台神学校」が開設された1886(明治19)年にさかのぼります。同年5月、新しい知識を求めて集まった6名の伝道者志望者を学生として、木町通りと北六番丁角の借家で開かれた私塾。それが東北学院の歴史的な第一歩となる「仙台神学校」の始まりです。1891(明治24)年には「東北学院」と改称され、伝道献身者以外にも普通・高等教育を施すようになりました。

創立から122年。東北学院大学では、これまでに約15万人の卒業生を世の中に送り出し、社会のさまざまな場面で高い評価を得ています。東北学院大学の卒業生は信頼できる——まさにこのひと言こそが、新たな可能性を切り拓く原動力となっているのです。去る5月15日には「東北学院 創立122周年記念式」が挙行政され、キリスト教の教えに基づく建学の精神は、揺るぐことのない永遠(とわ)なる想いとして、今なお多くの子弟たちに継承されています。

## 01 いよいよ開催！オープンキャンパス2008

いよいよオープンキャンパスのシーズン。毎年好評の全学オープンキャンパスが、今年も泉キャンパスと多賀城キャンパスを会場に、下記の日程で開催されます。

### 泉キャンパス

◆日時 8月2日(土) 9:00~15:00(受付時間 9:00~14:00)

◆学部 文学部・経済学部・経営学部・法学部・教養学部

#### 主な内容

- 学科ガイダンス ●入試説明 ●個別相談 ●模擬授業
- 入試対策講座「最近の入試動向と、勝つ受験生の過ごし方」(仮) (泉キャンパスのみ)
- 先輩懇談 ●キャンパスツアー(施設見学) ●パイプオルガン演奏会
- スタンプラリー ●無線LAN体験コーナー(泉キャンパスのみ)
- 仙台一人暮らし情報コーナー(泉キャンパスのみ)
- オリジナルグッズプレゼント ●無料ドリンクコーナー

※地下鉄泉中央駅~泉キャンパスまで無料シャトルバス運行  
※泉キャンパス→多賀城キャンパス行き無料バスも片道運行(12:30発車予定)

### 多賀城キャンパス

◆日時 8月2日(土)・3日(日) 9:00~15:00(受付時間 9:00~14:00)

◆学部 工学部

※多賀城キャンパス→泉キャンパス行き無料移動車片道運行(8/2のみ、12:30発車予定)



#### お問い合わせ

■総合案内/総務課 TEL.022-264-6412  
E-mail tgusomu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp  
■団体受付/入試課 TEL.022-264-6455  
E-mail nyushi@staff.tohoku-gakuin.ac.jp  
◎詳しくは、大学のホームページをご覧ください。  
<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp>

### 今年も好評!学部オープンキャンパス



好評の学部オープンキャンパス。6月28日(土)には、土樋キャンパスを会場に文学部・経済学部・経営学部・法学部のオープンキャンパスがそれぞれ開催されたほか、多賀城キャンパスを会場に工学部のオープンキャンパスが開催されました。また、7月5日(土)には、泉キャンパスを会場に教養学部のオープンキャンパスが開催されました。学科ガイダンスや入試説明、個別相談、模擬授業、先輩懇談など、学部ごとに工夫を凝らしているところが学部オープンキャンパスの大きな魅力。教養学部と工学部については、右記の日程で10月にも行われます。

#### 【多賀城キャンパス】

◆日時 10月11日(土)  
11:00~14:00  
◆学部 工学部

#### 【泉キャンパス】

◆日時 10月12日(日)  
12:00~16:00  
◆学部 教養学部

### 今年は青森市でも開催!地区オープンキャンパス

昨年の秋田市に続き、今年は青森市と秋田市を会場として「まるごと東北学院大学 in Aomori & Akita 2008」が開催されました。

青森地区オープンキャンパスは、5月10日(土)に青森県観光物産館アスパムで開催。学科相談をはじめ、入試や就職、学生生活に関する個別相談コーナーが設けられたほか、入試対策講座や各県出身の在学生との懇談などが行われました。

また、5月18日(日)に秋田県総合保健センターで開催された秋田地区オープンキャンパスでは、本学の卒業生で秋田朝日放送のアナウンサーとして活躍している北田氏によるトークショーも行われました。





## 02 梅原克彦仙台市長による公開講演会(泉キャンパス) 「環境行政の最前線～仙台市の取り組み～」



5月13日(火)の午後12時40分から、泉キャンパスで「環境行政の最前線～仙台市の取り組み～」をテーマに、梅原克彦仙台市長による講演会が開催されました。これは、教養教育科目「環境の科学」の公開講演会として行われたもので、この科目の履修生はもちろん、ほかの学生も自由に受講でき、

会場には多くの学生が詰めかけました。

講演会では、平吹喜彦先生が前回までの授業のポイントを振り返ったあと、梅原市長が登壇し、地球温暖化や環境問題に迫りながら、仙台市の取り組みを具体的に紹介していきました。コンパクトなまちづくりや交通の円滑化、廃棄物発電と余熱利用、野生動物の管理、脱スパイクタイヤ、広瀬川の清流を守る条例、グリーン購入など、さまざまな事例について説明したあとは、仙台市が今、取り組んでいる重要課題の一つとして、廃棄物やごみ減量に焦点をあてて解説。ほかの政令指定都

市での実情もまじえながら、10月からスタートする家庭ごみ等の有料化について理解と協力を求めました。

環境への取り組みは、一人ひとりの行動から、そして地域から—そんな熱い思いが伝わってくるようだった今回の公開講演会。学生からは不法投棄に関する質問も出て、環境問題に対する意識の高さがうかがえました。また、梅原市長からは、環境のことがよくわかる一冊として理科年表が紹介され、最後は“Think globally, act locally”という言葉で締めくくられました。



## 03 2008年度 「地域市民のための大学公開講座」(多賀城キャンパス)



多賀城市との連携協力協定事業の一環として「地域市民のための大学公開講座」が開催されました。これは、多賀城市民および近隣の地域市民に広く公開することを趣旨とした大学公開講座を多賀城市と共同で開催したもので、5月21日(水)から7月9日(水)までの毎週水曜日に8回にわたって開かれました。

メインテーマは「情報を正しくとらえる」。さまざまなメディアから発信されている社会の情報に対して、正しくその情報を認識してもらえるように、地域市民とともに考えていきました。

5月21日(水)に多賀城キャンパスで行われた開講式では、工学部の遠藤銀朗学部長が「大学としての総力をあげて、一番いいものを提供していきたい」と挨拶。50名の受講生のうち、およそ半分はリピーターということを見ると、大学公開講座が地域の間で確実に浸透してきているのがわかります。

本学では、この「地域市民のための大学公開講座」のほかにも、さまざまなテーマに基づいた公開講座を開講しています。詳しくは、研究機関事務課(TEL.022-264-6405)までお問い合わせください。

## 04 今年も白熱！ 青山学院大学との 総合定期戦



キャンパスの緑が輝きを増す中、毎年恒例となっている青山学院大学との総合定期戦が開催されました。

今年で第59回を迎えるこの総合定期戦は、5月31日(土)から6月2日(月)までの3日間を中心に、青山学院大学を会場として熱戦が繰り広げられました。総合成績は本学の9勝19敗で、今回は青山学院大学に軍配が上がり、これで本学の通算成績は21勝38敗となりました。

青山学院大学との総合定期戦も、いよいよ来年で60回目。スポーツを通じた伝統の絆は、ますます深まっています。来年は、仙台で開催される予定です。

## 05 破竹の54連勝！ 北海学園大学との 総合定期戦

今年で第54回を迎える北海学園大学との総合定期戦は、6月13日(金)から15日(日)までの3日間にわたって、本学の土樋キャンパスと泉キャンパスを会場に開催されました。伝統に彩られた両校の対決。今回の総合成績は本学の14勝4敗で、昭和30年の第1回大会から続いている連勝記録を“54”に伸ばしました。



13日(金)には、仙台市中心部で対面式やパレードも行われ、沿道の市民からは熱い声援が寄せられていました。戦績に関係なく、素晴らしい友情と温かい交流が続いているこの総合定期戦。来年は、札幌で開催されることになっています。



## 06 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム 「21世紀のキーテクノロジーを学ぶ」(多賀城キャンパス)



科学技術がめざましい進展を見せる一方で、小・中・高校生の“理科離れ”が昨今の教育現場における深刻な問題になっています。

そんななか、小・中学校および高等学校の理科担当教員を対象に、児童や生徒を引きつけるおもしろ実験から先端科学まで、体系的で楽しい理科教育の再構築に役立つ

提案をするために、7月28日(月)から9月6日(土)にかけて、このプログラムを実施します。特にカリキュラムでは、講義よりも実習を重視し、ふだんの授業に生かしてもらえるような指導法を考え、指導者の資質の向上を図りたいと考えています。受講者全員によるプレゼンテーション終了後は、優秀者3名を「ナノテクノロジー・バイオテクノロジーふれあい案内人」に認定し、さまざまな形で支援を行う予定です。

なお、5月2日(金)には、平成19年度「ふれあい案内人」の認定式(写真)が行われました。

	期 日	講義および実習名
第1回	7/28(月)	ナノテクノロジー概説
第2回	7/28(月)	バイオテクノロジー概説
第3回	7/29(火)	薄膜を作る
第4回	7/30(水)	針を使って表面を見る
第5回	8/4(月)	物質の構造を調べる
第6回	8/5(火)	物質の状態を探る
第7回	8/6(水)	強さを計る
第8回	8/18(月)	DNAについて
第9回	8/19(火)	DNAの検出について
第10回	8/20(水)	DNAの解読とその利用

◎9/6(土)には受講者全員によるプレゼンテーションが行われます。



## 07 平成20年度 東北学院大学後援会総会が開催されました



今年度の東北学院大学後援会総会が、5月17日(土)の午前10時40分より泉キャンパス礼拝堂で開催されました。

丸森会長、星宮学長による挨拶のあと、平成19年度後援会庶務報告・平成19年度後援会収支決算報告並びに会計監査報告・東北学院大学後援会規約の改正・東北学院大学後援会会長の選任・平成20年度後援会事業計画・平成20年度後援会収支予算などの審議が行われました。

総会終了後に、ご父母の方々はキャンパス内にある学生食堂を体験。感想を述べ合いながら、思い思いのメニューに舌鼓を打っていました。

この日は、大学開放プログラムとして、施設開放や個別面談コーナー、

本学教員による公開講座、パイプオルガンコンサート、学科別懇談会、学生の就職を考えるセミナー、多賀城キャンパス見学会なども実施。緑に包まれた広大なキャンパスで、施設・設備の充実ぶりに目を見張る姿があちこちで見受けられました。



## 08 平成20年度入学式 新入生オリエンテーションキャンプ



4月3日(木)に平成20年度入学式が挙行されました。例年会場に使用していた仙台市体育館が改修工事のため、今年度は仙台サンプラザを会場として3回に分けて

行われました。

入学宣言のあと、星宮学長は告辞で歓迎の意を表し、3,109名の新入生に対して「人生における主体性の確立を」と激励の言葉を贈りました。

新しい生活に期待を膨らませる新入生の何人かに話を聞いてみたところ、「何か新しいことにチャレンジしたい」、「おもしろそうなサークルがあったら、ぜひ入りたい」という声のほかに、「就職に役立つことを学びたい」、「教員免許を取るつもり」、「弁護士

をめざしたい」など、将来の進路のことを考えたコメントが多く返ってきました。

4月5日(土)から9日(水)にかけては、秋保温泉や日本三景・松島を会場に、平成20年度新入生オリエンテーションキャンプを実施。お互いのことを知り、新しい友達をつくる絶好の機会になりました。



## 09 平成19年度卒業式

3月24日(月)、仙台サンプラザを会場に平成19年度卒業式が行われ、大学院と学部学生を合わせて2,804名が本学から巣立っていきました。

星宮学長が告辞で「智恵により多くの問題が解決されることを信じた人生を」という「はなむけの言葉」を贈ったあと、卒業生総代が答辞を述べて、決意を新たにしました。

式が終わったあと、卒業生の間からは「いい友人や恩師と巡り会えた」、「大学で出会った友達は一生の宝」などといった声が聞かれました。



## 10 SPI対策模擬試験を実施

6月19日(木)にSPI対策模擬試験が行われました。これは就職を希望する3年生を対象にしたもので、費用については本学が負担。受験した学生は、みんな真剣な面持ちで取り組んでいました。

学生それぞれの目標に向かって、就職戦線はもう始まっています。

## 11 フジテレビ系列「ザ・ベストハウス123」 ～ものスゴイ歯車BEST3～放映について

4月9日(水)の午後7:57～11:20に放映されたフジテレビ系列「ザ・ベストハウス123～ものスゴイ歯車BEST3～」の中で、本学工学部の機械知能工学科で開発された磁気歯車を取り上げられました。内容的には娯楽番組ですが、堂々の「BEST 1」で紹介され、本学の名前もテロップで登場しました。

アニメは心の栄養



高橋先生

教養学部

まわりの皆さんからは、よく「綱引きの好きな先生」と言われますが、実は誤解です。以前、地元の特V番組で「おしくらまんじゅう」の運動量を調べたことはあるのですが、いつの間にか「綱引き」になっていて——。なぜ「おしくらまんじゅう」が「綱引き」になったのか、自分でも不思議で仕方ありません。

そんな自分が夢中になっているのは、何を隠そう、アニメです。まず原作を読んだから、映像化された作品を観る。この「読んで観る」というのがお気に入りですね。具体的には小野不由美さんの『十二国記』や田中芳樹さんの『銀河英雄伝説』など、好きな作家の作品は繰り返し本で読んだり、映像で観たりしています。心を揺さぶられるのはなぜだろう。おもしろさの秘密は何だろう。そう考えながら、アニメの世界に没頭していると、つい時間が経つのも忘れてしまいます。『十二国記』に出てくる「責難は成事に非ず」は、自分の好きな言葉の一つ。自分にとって、アニメは心の栄養です。

いつの間にか集まったというアニメのキャラクターの中には、教養子からの贈り物も。



もう一度、車を楽しみたい



伊鹿倉先生

経済学部

父親の影響で大の車好きに。学生時代は、ESS(英会話研究部)のほか、自動車部にも所属し、自動車競技にのめり込んでいました。大会には数多く参加しましたが、結果はイマイチ。しかし、勝ち負けよりも、サークルの仲間と車の話で盛り上がったり、遠征先の美味しい食べ物や温泉を楽しんだことは、今でも大切な思い出となっています。

約25年間過ごした九州から学院大に赴任したのが3年ほど前。自動車部の仲間とも離れ離れになり、久しく自動車競技から遠ざかっていますが、機会があれば、またハンドルを握ってみたいという思いは強いですね。仙台周辺には日本を代表するサーキットがありますし、将来は市販車ベースで気軽に参加できるサーキットレースに挑戦してみたいです。昔から負けず嫌いな性格なので、多少は勝ち負けにこだわりたいとは思いますが、それよりもレースを通じて、さまざまな人々と交流できることを楽しみにしています。



授業の合い間に学生と談笑する伊鹿倉先生。「最近車好きの若者が少なくなった」と、ちょっぴり残念そう。

テニスでコミュニケーション



呉先生

工学部

同僚の先生に誘われて、3年ほど前からテニスを始めました。ふだんは他の先生方と一緒に、主に昼休みを利用して練習しています。上達すればするほど、ますます興味が湧いてくる。テニスには、そんな不思議な魅力がありますね。しかも体力だけでなく、相手の動きを読んだり、ウィークポイントに狙いを定めたり、とっさに頭も働かせなければなりません。

私は子供の頃から、ずっとサッカーをやっていたのですが、まわりの状況を見ながらプレーするという点では、テニスもサッカーも通じるものがあります。さらに突き詰めて言えば、テニスと学問というのも、どこか似ていると思います。素晴らしい指導者の教えを受けながら、自分なりに精一杯の努力を続ける。それが自分自身を高めていくことにつながるわけですから。

大学生協が主催する年2回の大会は、テニスを通じて、多くの人とコミュニケーションが図れるので、いつも楽しみにしています。

日本での生活も13年目。仙台は「人も自然もやさしくて、一番好きな街」だそう。





一つのテーマに対して、学生や教職員たちはどう思っているのか、キャンパス内の声を集めたこのコーナー。今回はチャレンジしていることや、チャレンジしようと思っていることを聞いてみました。

いわゆるフリスビーを使ったアルティメットのサークルを作る予定です。みんなでチャレンジ。

1年生・庄司さん



フォークソング愛好会では、部内ライブでボーカルに挑戦。大学祭のステージも楽しみ。

1年生・太田さん



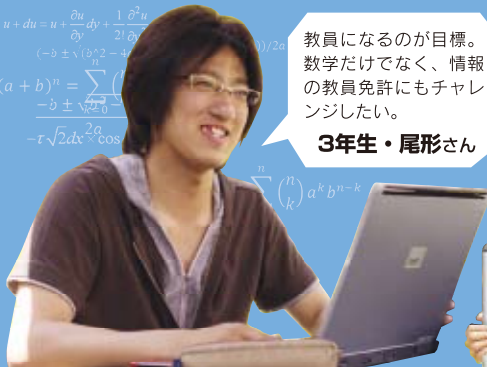
バンドの活動では、みんなが楽しめるような作詞にチャレンジ。新しい自分を発見したい。

1年生・齋藤さん



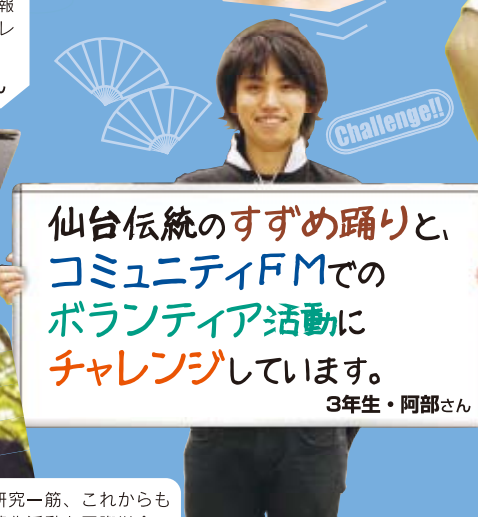
教員になるのが目標。数学だけでなく、情報の教員免許にもチャレンジしたい。

3年生・尾形さん



仙台伝統のすずめ踊りと、コミュニティFMでのボランティア活動にチャレンジしています。

3年生・阿部さん



ボクシング部では、毎日が挑戦の連続。1年生は自分だけが、大会に向けて頑張ります。

1年生・白鳥さん



学びのテーマをしばり込み、専門的な知識をさらに深めたいですね。

2年生・鷲尾さん



研究一筋、これからも著作活動と国際学会の発表を続け、世界に発信すること。

教養学部・石川先生

高校では吹奏楽をやっていたので、これからも大好きな音楽にチャレンジ。

1年生・金澤さん

資格取得にチャレンジ。なかでもパソコンに関係のある資格は、ぜひ取りたいです。

1年生・大山さん



脳トシで仕事の効率をさらにアップ。

学生課・菅原さん



大学でしか学べないことをたくさん学びたい。本当の自分探しにチャレンジ。

1年生・小池さん

皆様のご意見をお待ちしております。

編集室では「チャレンジ」というキーワードにちなみ、読者の皆様からのご意見やご感想を募集中です。ご応募は、住所・氏名・連絡先をご記入のうえ、下記のメールアドレスまでお送りください。

E-mail : uranos@t-gakuin.jp

# 杉山元治郎と デイヴィッド・ボーマン・シュネーダー

経済学部教授 <sup>いねい</sup>岩本 <sup>もと</sup> <sup>よし</sup>由輝 <sup>てる</sup>



1902（明治35）年院長就任当時のデイヴィッド・ボーマン・シュネーダー

杉山さんは、1955（昭和30）年5月10日に開かれた東北学院創立70周年記念式において同窓生を代表して述べた祝辞のなかで、在学当時の院長シュネーダー先生に触れ、「私一個人を振り返り見れば入学当時は一介の粗暴な野人に過ぎず、或は又此世的なものを追求める浅薄な功利主義者に過ぎませんでした。此の私が少しでも人間らしくなり、人の為に奉仕せんとする考えの持主になったことは東北学院の教育とシュネーダー博士の人格感化の賜物であります。私の野心は浄化され、虐げられたる農民を解放するために日本農民組合を創立する事も

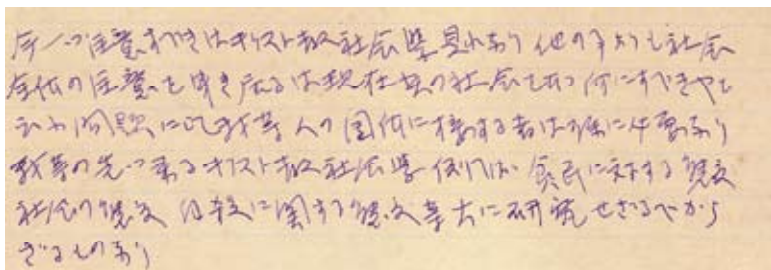
亦政治的平等を確立するために労働農民党を創立した事も皆東北学院精神の発露に過ぎなかったのであります」と述べ、その学恩を謝しています。しかし、そうはいつでも、シュネーダー先生、あるいは東北学院が杉山さんに対して直接社会主義を教育したわけではありません。ただ、社会正義を求めてキリスト教に入信し、さらに神学の道に進んだ杉山さんに対して、シュネーダー先生は民主主義というものを教えてくれたのです。天皇主権の大日本帝国憲法のもとでは、デモクラシーの訳語として民主主義ということばはありましたが、それを主権在民を意

味するイデオロギーとして用いることは国禁でありました。デモクラシーが吉野作造によって民本主義と表現された背景には、そのような状況があったのです。

したがって、日本の公教育においては民主主義教育が制度的に行われることはありませんでした。大阪府下の尋常小学校、高等小学校、大阪府立農学校でそうした教育を受けることのなかった杉山さんにとって、シュネーダー先生をはじめ、ウィリアム・ジョージ・サイプル先生やアレン・リライン・ファウスト先生が授けてくれて身についた民主主義は大変新鮮なものでした。身についたといったのは、シュネーダー先生などの民主主義教育は、私などが第二次世界大戦後に受けた民主主義教育のようになってつけたようなものではありませんでした。

杉山さんは1906（明治39）年に東北学院に入学するとともに、シュネーダー先生から、早速神学諸論を学びましたが、そのなかで、もし社会主義につながるものがあるとすれば、組織神学にとって必要なのは、キリスト教弁証論、キリスト教心理学、キリスト教倫理学であるとしよう。で、「今一つ注意すべきはキリスト教社会学、是れなり。他の事よりも社会全体の注意を曳き居るは、現在、此の社会を如何にすべきやと云ふ問題にして、我等人の団体に接する者は殊に必要なり。我等の先づ来るキリスト教社会学、例へば貧民に対する態度、社会の態度、自殺に関する態度等、大に研究せざるべからざるものなり」と述べられたところでしょう。

杉山さんがやがて社会主義に眼を開くとき、民主主義の欠如した社会主義に身を置くことを決してしようとしなかったのは、シュネーダー先生の教えに深く根ざしているからなのです。



杉山に社会問題・貧困問題の研究に確信を抱かせたシュネーダーの講義の一節





# TGUインフォメーション Information

## 全学オープンキャンパス

8月2日(土) 時間 9:00~15:00 場所 泉キャンパス・多賀城キャンパス

8月3日(日) 時間 9:00~15:00 場所 多賀城キャンパスのみ

学科ガイダンスや入試説明、個別相談、模擬授業、先輩懇談、キャンパスツアー(施設見学)など、見て、触れて、楽しみながら東北学院大学のことがよくわかる好評のオープンキャンパスを開催します。

お問い合わせ先/総務部総務課 TEL.022-264-6412  
※全学オープンキャンパスについては、本誌の3ページでも紹介しています。

## ホームカミングデー・第9回同窓祭

10月4日(土) 時間 13:00~ 場所 土樋キャンパス

記念礼拝や記念式、名誉教授による特別講義、パイプオルガンコンサートなどが行われます。また、同日の17:00からは、仙台市青葉区の江陽グランドホテルを会場に「懐かしい出会いの夕べ」が開催されます。

お問い合わせ先/庶務部校友課 TEL.022-264-6468

## 工学部祭・泉キャンパス祭・六軒丁祭

10月11日(土)~12日(日) 場所 多賀城キャンパス(工学部祭)

10月12日(日)~13日(月) 場所 泉キャンパス(泉キャンパス祭)

10月17日(金)~19日(日) 場所 土樋キャンパス(六軒丁祭)

秋になると、各キャンパスで大学祭が盛大に開催されます。当日は文化系のサークルが中心となって、さまざまな展示やステージでの発表など、日頃の活動の成果を発表します。

お問い合わせ先/各大学祭実行委員会



## 第20回泉キャンパスクリスマス

12月5日(金) 時間 18:30~ 場所 泉キャンパス礼拝堂

パイプオルガンの演奏や聖歌隊による合唱、キャンドルサービスなどが行われます。また、小さなお子様にはクリスマスプレゼントも用意しています。

お問い合わせ先/泉キャンパス庶務係 TEL.022-375-1121

## 第59回公開東北学院クリスマス

12月12日(金) 時間 18:00~ 場所 土樋キャンパス・ラーハウスー記念礼拝堂

聖歌隊と室内アンサンブルによるオラトリオ「メサイヤ」の演奏、キャンドルサービスなどが行われます。厳かな雰囲気の中での公開クリスマス。多くの方のご参加をお待ちしています。

お問い合わせ先/庶務部庶務課 TEL.022-264-6464

## キャンパスカレンダー

7 July

28 MON アメリカ研究アサイナス大学夏期留学出発 (~8/27[水])

28 MON ▶ 30 WED サマーカレッジ I

8 August

2 SAT 全学オープンキャンパス (泉キャンパス・多賀城キャンパス)

3 SUN 全学オープンキャンパス (多賀城キャンパスのみ)

4 MON 平澤大学校夏期留学出発 (~8/30[土])

4 MON ▶ 5 TUE サマーカレッジ II

9 SAT 青山学院大学対東北学院大学二部交流定期戦 主管:東北学院大学

9 September

6 SAT 北海学園大学対東北学院大学二部総合定期戦 主管:北海学園大学

18 THU 企業と学生の合同セミナー 主催:東北学院大学就職部 会場:仙台サンプラザ

10 October

4 SAT ホームカミングデー・第9回同窓祭

4 SAT 教養学部・第3回地域社会と教育を考えるフォーラム

11 SAT 工学部オープンキャンパス

11 SAT ▶ 12 SUN 工学部祭

12 SUN 教養学部オープンキャンパス

12 SUN ▶ 13 MON 泉キャンパス祭

17 FRI ▶ 19 SUN 六軒丁祭

18 SAT 教養学部20周年記念祝賀会ならびにポスターセッション 会場:仙台国際ホテル

11 November

13 THU 推薦入試

12 December

5 FRI 泉キャンパスクリスマス

10 WED ▶ 11 THU 大学クリスマス

12 FRI 公開東北学院クリスマス

13 SAT 教養学部・第4回地域社会と教育を考えるフォーラム

◎入試の日程については、大学のホームページをご覧ください。

東北学院大学

■土樋キャンパス  
 大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科  
 法務研究科  
 学 部：文学部・経済学部・法学部（各3・4年）、  
 夜間主コース  
 〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
 TEL.022-264-6411 FAX.022-264-3030

■多賀城キャンパス  
 大学院：工学研究科  
 学 部：工学部  
 〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号  
 TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

■泉キャンパス  
 大学院：人間情報学研究科  
 学 部：文学部・経済学部・法学部（各1・2年）、  
 教養学部  
 〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号  
 TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

東北学院中学校・東北学院高等学校

〒983-8565 仙台市宮城野区小鶴字高野123番1  
 TEL.022-786-1231 FAX.022-786-1460

東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号  
 TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号  
 TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655



「Οὐρανός(ウーラノス)」は「天」を意味するギリシヤ語です。使徒パウロは、しもべを公平に扱うようにと主人に教える箇所です。「知ってのとおり、あなたがたにも主人が天におられるのです」(コロサイの信徒への手紙4章1節)と語っています。この箇所にも οὐρανός の語が用いられています。

Οὐρανός ウーラノス  
 東北学院大学  
 広報誌 vol.28

広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	関谷 登
副委員長	総務部長	柴田 良孝
編集長	経済学部教授	原田 善教
委員	宗教部長	佐々木哲夫
	文学部教授	楠 義彦
	経済学部准教授	白鳥 圭志
	法学部教授	塩屋 保
	工学部教授	石川 雅美
	教養学部准教授	佐々木桂二
	総務部次長	鈴木 孝郎
	総務部総務課長補佐	斎藤 信二
	総務部総務課	藁科 明宏

東北学院大学広報誌「Οὐρανός(ウーラノス)」に関するご意見・ご質問をお待ちしております。

本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて

本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。

発行日は、7月20日・1月20日です。

発行日 2008(平成20)年7月20日  
 編集 東北学院大学 広報誌編集委員会  
 発行 東北学院大学  
 〒980-8511  
 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
 TEL.022-264-6412 FAX.022-264-3030  
 URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>  
 E-mail [uranos@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:uranos@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)

我ら卒業生

東北学院大学には文化がある。



実家がサイクルショップだったこともあり、高校時代、今はプロとして活躍している友達と自転車競技部を立ち上げ、見事インターハイ出場を果たしました。当時、自転車競技の世界では、実業団よりも学連の方が強くて、大学で競技を続けることは、私にとって大きな憧れでした。そんな中、高校の恩師が選手の育成に熱心な大学として紹介してくれたのが、東北学院大学だったのです。

東北学院大学の自転車競技部といえば、常に全国で「ベスト5」に入る強豪校で、オリンピックの強化指定校でもありました。練習はかなり厳しくて、一日に200~300キロは走っていましたね。勉学の面では、よく教授のところを訪ねたものですが、その場で熱心に対応していただき、人としての温かみを感じました。

静岡でも自転車業界でも、東北学院大学のことを知っている人はたくさんいます。そんな心のつながりは、仕事だけでなく、さまざまな場面で活かされています。これは卒業してから実感することなのかもしれませんが、卒業生であることに誇りを感じますね。良いものが多く残っていて、まさに「東北学院大学には文化がある」——そういったも決して過言ではありません。大学には、これから心と体の調和を考えた教育をして欲しいと願っています。

自転車を扱うプロとして、本物を追求する姿勢を大切にしながら、お客様一人ひとりの人生観を変えられるお店づくりをめざすこと。それが現在の私の目標です。自分自身、理想的な体型を維持しながら、自転車は健康に良いという模範を示していきたいですね。

自転車プロショップ(株)御園井商会代表取締役 実業団ミソノイレーシングチームコーチ

みそのい 御園井 智三郎さん

1985(昭和60)年法学部法律学科卒業。在学中は自転車競技部に所属。現在は郷里の静岡県で自転車プロショップを経営するかわら、実業団のレーシングチームのコーチも務める。政令指定都市・浜松の街づくりにも参画しており、これからは自動車中心ではなく、歩行者や自転車を優先した人にやさしい街づくりをめざしていきたいと考えている。



編集後記

今号より装いを一新しました。学内から収集された様々な情報を有機的に再構成して、それぞれの場における息づかいや動勢といった「本学のいま」を「hot」に再現し、本学に関わるすべての人々に伝えたいと願うのでした。混迷する世界情勢に鋭く切り込みつつ、地球環境の将来に思いを馳せ、今後とも地域に開かれた大学として本学に与えられた高等教育機関としての使命を十全に果たしていきたいと考えています。なお、内容などにつきまして忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。